

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ののほな逗子駅前			
○保護者評価実施期間	2025年 9月 1日		～	2025年 9月 14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24	(回答者数)	21
○従業者評価実施期間	2025年 9月 1日		～	2025年 9月 14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 9月 25日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童指導員や保育士に加え、言語聴覚士・リトミック講師・SSTスキルを持った職員などの専門職が在籍し、子どもの発達や特性に応じた支援を行っています。	専門職が関わることで、個々の子どもに応じた多角的なアプローチが可能となり、より効果的な支援を行っています。	保護者向けの相談会や勉強会を開催し、家庭と連携した支援を強化することで、子どもたちの成長をより広い視点で支えていくことを目指します。
2	保護者の方々と密接に連携し、子どもたちの成長や日々の活動の様子を丁寧に共有することで、保護者が安心して子どもを預けられる環境を整えている点が事業の大きな強みです。記録を充実させる取り組みによって、家庭と事業所が一体となった支援を実現しています。	活動の様子を文章だけでなく【写真】として記録し、保護者向けの【オンライン共有ツール】を活用して提供することで、視覚的に子どもの成長を伝える工夫を行っています。これにより、保護者がより実感を持って子どもの成長を把握できるようにしています。	提供記録や写真の内容にばらつきが出ないよう、【記録のフォーマットや基準を統一】し、すべての職員が同じレベルで支援の様子をフィードバックできる体制を整えることが課題です。さらに、定期的な研修や振り返りを通して記録の質を高め、保護者にとってよりわかりやすく、一貫性のある情報提供を実現していきます。
3	専用システムやスプレッドシートを活用し、職員間で円滑な情報共有を行うことで、子どもたちに一貫性のある支援を提供できている点が強みです。また、午前中の全体ミーティングを通じて、職員一人ひとりが子どもの状況や支援方針を把握し、チーム全体で統一した支援を実施しています。	情報共有や会議だけでなく、法人内の他事業所での取り組みを積極的に共有し、良い実践を取り入れることで、現場に即した支援の工夫を行っています。こうした取組により、常に新しい視点や実践方法を学び合いながら、支援の質を維持・向上させています。	今後は、提供記録や会議での情報共有にチェックリストや動画などを加え、より具体的で質の高い支援内容を共有できるようにするとともに、オンライン共有ツールを活用した双方向的なやり取りを強化し、さらに外部の実践事例や専門的知見も取り入れることで、支援の質を一層高めています。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他の子どもと活動する機会がない。	保護者からも職員からも「必要ではないのでは。実現は難しいのでは。」との声がある。 → 子どもたちの特性上、大人数や新しい環境に馴染むことが難しい場合が多く、交流機会の設定自体に課題がある。	地域とのつながりを持つことは、子どもたちの社会性や協調性を育む上で重要であると考えており、今後は地域の公園や施設を活用した活動を積極的に企画し、地域の子どもたちと自然に関われる場を提供できるよう努めます。そのため、無理のない範囲で小規模な交流や段階的な取り組みを工夫する必要がある。
2	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を行っていない。	事業所の立地や時間の捻出が要因に挙げられる。また一般開放するには子どもたちの安全確保等も課題となる。 → 子どもたちの特性から、不特定多数の参加がある場では負担が大きく、安心して過ごせる環境を優先している側面がある。	活動時間が長期休み期間などに実施し、まずは関係機関の方や顔の知れた近所の方を招待することを検討中です。そのため、地域への理解を得ながら、少人数・限定的な参加や見学など、無理のない形で地域との関わりを広げていく工夫が必要と考えています。
3			